

# 三重県茶業の現状

(一部抜粋)

令和6年3月

三 重 県



# 1 本県における茶業

## (1) 伊勢茶の全国的地位

本県における茶生産状況の全国的な地位は、栽培面積、荒茶生産量が静岡県、鹿児島県に次いで第3位である。

茶種別では、かぶせ茶の生産量が全国第1位で、全国シェアの64%と高いウエイトを占めている。

ただし販売面では、「伊勢茶」としてではなく、他府県産の銘柄茶の原料用茶として出荷されることが多いため、静岡茶、宇治茶など全国的な銘柄産地に比べ市場単価が低く、流通・消費段階で「伊勢茶」のブランド化を確立することが重要な課題となっている。

栽培面積・荒茶生産量・生葉・荒茶産出額の全国概要(主産県)

栽培面積 (令和4年)			荒茶生産量 (令和4年産)			生葉荒茶産出額 (令和3年産)		
府県名	面積 (ha)	比率 (%)	府県名	生産量 (t)	比率 (%)	府県名	金額 (億円)	比率 (%)
全 国	36,900	100.0	全 国	77,200	100.0	全 国	783	100.0
①静岡	13,800	37.4	①静岡	28,600	37.0	①静岡	268	34.2
②鹿児島	8,250	22.4	②鹿児島	26,700	34.6	②鹿児島	239	30.5
③三重	2,590	7.0	③三重	5,250	6.8	③京都	62	7.9
④京都	1,540	4.2	④宮崎	3,000	3.9	④三重	48	6.1
⑤福岡	1,500	4.1	⑤京都	2,600	3.4	⑤福岡	32	4.1
⑥宮崎	1,230	3.3	⑥福岡	1,750	2.3	⑥宮崎	26	3.3
⑦熊本	1,100	3.0	⑦熊本	1,290	1.7	⑦愛知	15	1.9
⑧埼玉	729	2.0	⑧埼玉	729	0.9	⑧埼玉 佐賀	14	1.8

※栽培面積、荒茶生産量は、農林水産省「作物統計」による。主産県調査であり、6年周期で全国調査を実施している。なお、主産県とは、直近の全国調査年である令和2年調査における全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び茶の畑作物共済事業を実施する都道府県である。

※全国の栽培面積、荒茶生産量については、主産県の調査結果から推計したものである。

※生葉荒茶産出額は農林水産省「生産農業所得統計」による。

茶種別荒茶生産量の全国主産県概要(令和4年産)

(単位：t、%)

茶種	普通煎茶			かぶせ茶			
	順位	府県名	生産量	比率	府県名	生産量	比率
		全国	39,559	100.0	全国	2,104	100.0
1		静岡	17,007	43.0	三重	1,338	63.6
2		鹿児島	15,110	38.2	奈良	235	11.2
3		宮崎	2,207	5.6	静岡	126	6.0
4		三重	1,124	2.8	京都・福岡	121	5.8
5		福岡	1,012	2.6	佐賀	85	4.0
6		埼玉	658	1.7	鹿児島	34	1.6
7		熊本	561	1.4	滋賀	13	0.6
8		奈良	405	1.0	大分	12	0.6
9		京都	328	0.8	愛知・茨城	8	0.4
10		滋賀	177	0.4	島根	2	0.1

茶種	番茶			その他			
	順位	府県名	生産量	比率	府県名	生産量	比率
		全国	23,610	100.0	全国	3,008	100.0
1		静岡	10,981	46.1	三重	1,132	37.6
2		鹿児島	9,212	39.0	鹿児島	532	17.7
3		三重	1,003	4.2	大分	529	17.6
4		奈良	900	3.8	佐賀	386	12.8
5		京都	847	3.6	京都	137	4.6
6		滋賀	266	1.1	長崎	123	4.1
7		埼玉	121	0.5	福岡	121	4.0
8		宮崎	83	0.4	高知	23	0.8
9		茨城	55	0.2	兵庫	12	0.4
10		愛知・高知	45	0.2	山口	7	0.2

(資料：全国茶生産団体連合会調査)

※その他は、食品加工用茶等

## (2) 本県の風土と伊勢茶

本県は、北緯 33° 70′ から 35° 25′ の間に位置し、西北に鈴鹿山脈、台高山脈を背負い、東南は伊勢湾、熊野灘に面した南北に細長い地形である。県内の大半の地域は年平均気温が 14～15℃と温暖で、茶の栽培に必要とされる年間降雨量 1,500 mm以上の地域では、ほとんどが茶の生産適地となっている。

本県における摘採時期については、以上のような地理的条件から地域による差はあるものの、お茶むね一番茶は4月下旬から5月中旬、二番茶は6月下旬から7月上旬に摘採されている。全国的には、遅場の産地となっている。

## (3) 伊勢茶の特徴

歴史的な背景と立地条件から、普通煎茶のほか、かぶせ茶、深蒸し煎茶等、特色のある茶が生産されている。

恵まれた立地条件の中で栽培され、生育が良好なため、葉肉が厚く、滋味濃厚で3煎目まで味や香気の変化がない特徴を備えている。

本県では 800 年以上にわたる茶栽培の歴史があり、江戸時代には本県出身の商人が上方や江戸で幅広く販売を行うとともに、江戸時代末期からは輸出にも力が注がれ、外貨獲得に大きく貢献するなど、古い歴史と伝統に培われた高い生産技術をもっている。近年では、主要産地の防霜ファンの整備もほぼ完了し、茶園作業の機械化による省力化・製茶工場の近代化や大型化が進むなど生産基盤も整備された中で、高品質茶が生産されている。

## (4) 地域の特徴

茶の中心的な産地は、北勢地域と中南勢地域にある。

北勢地域では、鈴鹿市、四日市市、亀山市の3市を中心に、鈴鹿山麓の黒ボク地帯の平坦地に茶園が広がっており、経営規模の拡大が進んでいる。茶種については、普通煎茶、かぶせ茶が多く、てん茶やもが茶などの生産も行われている。

中南勢地域では、谷あいの傾斜地や、川沿いの平地で良質茶栽培が行われ、大台町で煎茶、松阪市(旧飯南町及び飯高町)で深蒸し煎茶が生産されている。

また、その他、県内各地に点在している小規模ながらも特色のある産地を含めて、伊勢茶産地が形成されている。

## 2 伊勢茶の生産及び流通

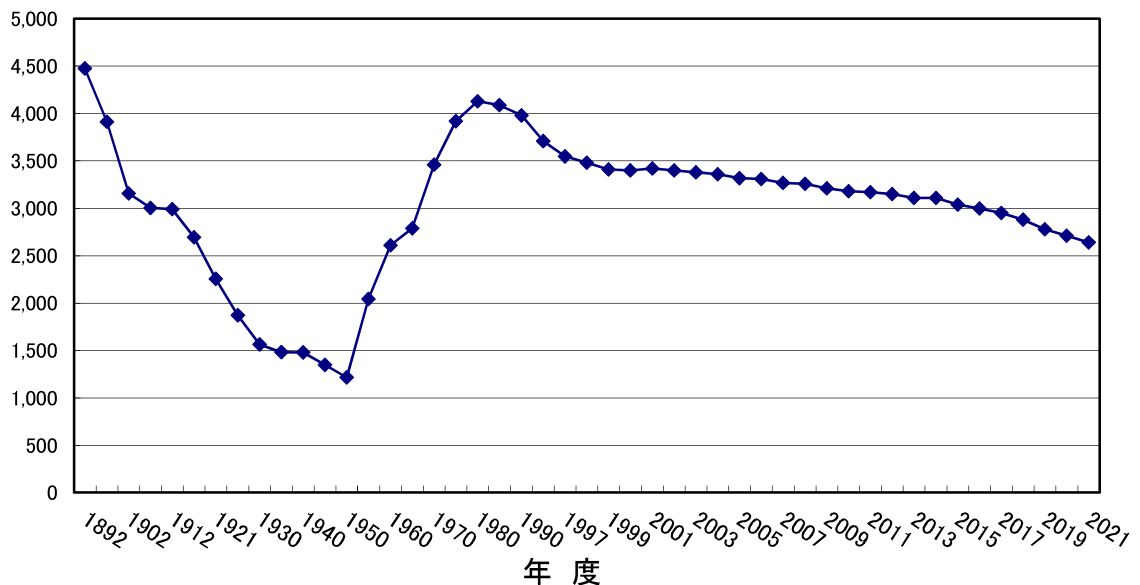
### (1) 栽培面積

本県の茶栽培面積は、明治 25 年の 4,419ha(統計開始年次)をピークとして、兼用茶園を中心に漸次減少を続け、大正末期から昭和初期のいわゆる農業恐慌時には 1,400ha まで減少した。さらに昭和 16 年に食糧増産のため、茶は不急作物に指定され昭和 22 年に 1,154ha まで減少した。

戦後は、昭和 25～35 年の間は輸出量の増加、昭和 40 年から経済の高度成長による需要の拡大や上質茶志向による茶価の上昇によって急激に回復し、昭和 50 年には 3,920ha に達した。

しかし、その後は食生活の多様化や各種飲料の伸長により消費量は減少傾向に転じ、昭和 56 年、57 年の 4,140ha をピークに、微減傾向が続いている。令和4年の栽培面積は 2,590ha で、前年に比べ 50ha 減少した。

茶の栽培面積の推移(ha)



(資料:農林水産省「作物統計」)

(2) 品種(主力品種及び近年の注目品種)

早 生	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">さえあかり</div>	来 歴 : Z1×さえみどり 育成者 : 農研機構果樹茶業研究部門(枕崎)
	品質の特徴 : アミノ酸含量が高く細燃れしやすい被覆向きの品種。穀物を思わせる芳醇な香気が特徴です。	
	作期分散 : 「やぶきた」より約4日程度早い早生品種です。	
早 生	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">きりり31</div>	来 歴 : さきみどり×さえみどり 育成者 : 宮崎県総合農業試験場 茶業支場
	品質の特徴 : 色沢が優れ、温和な香味で渋味が少なく、かぶせ茶、煎茶共に好適な品種です。	
	作期分散 : 「やぶきた」より約3日程度早い早生品種です。	
早 生	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">せいめい</div>	来 歴 : ふうしゆん×さえみどり 育成者 : 農研機構果樹茶業研究部門(枕崎)
	品質の特徴 : 外観は明るく冴えた緑で、青みの水色、甘い清香で旨味を感じます。	
	作期分散 : 「やぶきた」より約1日程度早い、やや早生品種です。	
中 生	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">やぶきた</div>	来 歴 : 静岡在来実生から選抜 育成者 : 杉山彦三郎翁選抜・静岡県茶試育成
	県内流通実績 : 県内で80%を占める代表品種で、経営の中心品種として長年位置づけられてきました。	
	品質の特徴 : 煎茶として良好とされ、強い香気と優雅な滋味を兼ね備えています。	
中 生	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めいりよく</div>	来 歴 : やぶきた×やまとみどり 育成者 : 野菜・茶業研究所(金谷)
	品質の特徴 : すっきりした味とさわやかな香り、明るい色沢が特徴の品種です。	
	収量性 : 樹勢が強く分枝も多いため、多収性の品種です。	
晩 生	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">おくみどり</div>	来 歴 : やぶきた×静岡在来17号 育成者 : 野菜・茶業研究所(金谷)
	県内流通実績 : 「かぶせ茶」地域でやぶきたに続く品種として支持されています。	
	品質の特徴 : 濃緑色で形状がよいが、摘採遅れで白茎がやや目立ちます。香味は優秀です。	
作期分散 : 「やぶきた」より約7日程度遅い晩生品種です。		
その他 : 樹勢が強く栽培し易いですが、さめ肌、幹割れにやや弱い品種です。		

(3) 生葉生産

生葉の生産は、栽培面積が漸減傾向にある一方、条件適地では担い手への集積が進んでいる。令和4年の生葉収穫量は年間 25,800t で、うち一番茶は 12,000t となっている。

茶期別生葉生産量

(単位：ha、t、%)

項目	年間		一番茶		二番茶		三番茶		冬春秋番茶	
	摘採面積	生葉収量	摘採面積	生葉収量	摘採面積	生葉収量	摘採面積	生葉収量	摘採面積	生葉収量
S50	3,370	32,400	3,360	14,400	2,960	13,500	-	-	1,660	4,440
S55	3,530	30,000	3,520	13,900	3,150	13,000	-	-	1,930	3,090
S60	3,700	31,900	3,700	15,100	3,060	12,400	-	-	1,760	4,370
H2	3,650	29,500	3,650	13,700	2,930	13,700	3	10	920	2,120
H7	3,390	29,300	3,370	13,800	2,760	12,800	2	6	1,170	2,660
H12	3,200	32,200	3,200	14,400	2,650	12,900	-	-	1,600	4,950
H17	2,990	36,000	2,990	15,400	2,750	13,600	-	-	1,940	6,990
H22	2,920	33,200	2,920	13,600	2,310	10,600	-	-	1,660	9,010
H27	2,830	32,600	2,830	16,400	1,870	9,980	-	-	1,360	6,250
R2	2,520	24,000	2,520	10,600	-	-	-	-	-	-
R3	2,400	25,700	2,400	10,000	-	-	-	-	-	-
R4	2,320	25,800	2,320	12,000	-	-	-	-	-	-
前年対比	96.7	100.4	96.7	120.0	-	-	-	-	-	-

(資料：農林水産省「作物統計」、H29 以降の茶期別データは一番茶のみ)

10a 当たり生葉生産量の推移

(単位：kg)

年度	区分	年間	一番茶	二番茶	三番茶	冬春秋番茶
S45		983	422	450	225	231
S50		961	428	456	162	267
S55		850	395	413	163	160
S60		862	408	406	206	248
H2		806	375	468	283	230
H7		864	409	464	300	248
H12		1,010	449	487	-	309
H17		1,200	515	542	-	360
H22		1,140	465	460	-	543
H27		1,150	580	534	-	460
R2		952	421	-	-	-
R3		1,070	417	-	-	-
R4		1,110	517	-	-	-

(資料：農林水産省「作物統計」、H29 以降の茶期別データは一番茶のみ)



#### (4) 荒茶生産

荒茶生産量は、昭和 50 年代に 7,000t を超え、ペットボトルなど茶飲料向け需要の拡大等により平成 24 年には 7,740t となったが、それ以降、栽培面積の減少に合わせて漸減傾向となっている。こうした中、令和 4 年度の荒茶生産量は、令和 3 年度より約 110t 減少した。

茶期別荒茶生産量

(単位:t、%)

年度 \ 区分	年間	一番茶	二番茶	三番茶	冬春秋番茶
S45	6,512	2,618	2,538	47	1,309
S50	7,620	3,178	3,050	20	1,372
S55	7,033	3,060	3,040	8	924
S60	7,200	3,190	2,770	4	1,236
H2	6,620	2,910	3,140	2	576
H7	6,650	3,090	2,820	1	744
H12	7,410	3,280	2,910	—	1,220
H17	8,110	3,250	3,170	—	1,690
H22	7,100	2,710	2,300	—	2,090
H27	6,830	3,260	2,070	—	1,500
R1	5,910	2,480	—	—	—
R2	5,080	2,090	—	—	—
R3	5,360	1,980	—	—	—
R4	5,250	2,370	—	—	—
前年比	97.9	119.7	—	—	—

(資料:農林水産省「作物統計」、H29 以降の茶期別データは一番茶のみ)

茶種別荒茶生産量

(単位：t、%)

年次	区分					
	玉露	かぶせ茶	てん茶	煎茶	番茶	その他
S45	10	115	3	4,616	1,754	14
S50	12	826	5	4,626	2,150	1
S55	13	926	—	4,830	1,260	4
S60	35	1,120	27	4,565	1,450	—
H2	33	1,130	150	4,600	707	4
H7	40	1,140	—	4,470	484	524
H12	17	1,180	18	4,700	667	822
H17	2	1,420	48	4,650	859	1,130
H22	(おおい茶として公表) 1,390			3,340	1,690	683
H27	(おおい茶として公表) 1,820			3,110	1,090	809
R2	297	1,250	173	1,099	1,133	744
R3	382	1,134	230	1,301	956	1,107
R4	412	1,338	307	1,124	1,003	1,132
前年比	107.9	118.0	133.5	86.4	104.9	102.3

(資料：農林水産省「作物統計」、H29 以降の茶種別生産量は全国茶生産団体連合会調査)

\* 平成 29 年産より農林水産統計の茶種別統計が廃止されたため、以降は全国茶生産団体連合会調査より記載

茶期別荒茶価格(令和4年)

(単位：円/kg、%)

県名	1番茶(普通煎茶)		2番茶(普通煎茶)		冬春秋番茶	
		前年比		前年比		前年比
三重県	1,188	94	554	92	315	97
静岡県	1,950	91	638	81	298	97
鹿児島県	2,002	104	832	92	286	93

(資料：全国茶生産団体連合会調査)

製茶加工場の整備状況

(単位：工場経営体数)

年次 区分	昭和 45	昭和 50	昭和 55	昭和 60	平成 2	平成 7	平成 12	平成 17	平成 22	平成 27	令和 4	令和 5
	全国	15,139	14,300	—	12,897	11,700	10,073	8,413	7,103	—	—	—
三重県	862	952	968	960	818	818	589	515	411	313	195	182
比率(%)	5.7	6.7	—	7.4	7.0	8.1	7.0	7.3	—	—	—	—

(資料：平成2年以前農林水産統計、平成3年以降各県調査)

(5) 荒茶の流通

県内の茶市場は、昭和 33 年に水沢茶農業協同組合が全国で初めての茶専門農協として設立され、市場を開設したのに始まり、昭和 40 年には亀山茶農業協同組合、昭和 42 年に鈴鹿農業協同組合で茶の市場取引が開始された。昭和 47 年には、鈴鹿農業協同組合の茶の取引所が三重県経済農業協同組合連合会の北勢茶センター（現在、全国農業協同組合三重県本部所管）として改組されるとともに、大台町にも経済連南勢茶センター（北勢茶センターと同じ）が開設され、3組織4市場体制となった。その後、平成 27 年2月に水沢茶農業協同組合と亀山茶農業協同組合が合併し、新たに三重茶農業協同組合となり、2組織3市場体制となった。

近年、茶の消費量が伸び悩むなか、緑茶の消費拡大および伊勢茶の銘柄化に資するため、各茶市場が協力して伊勢茶推進協議会を設立し、緑茶の PR 活動や、お茶の淹れ方教室の開催などを実施するほか、市場機能の強化方策について検討している。また、新たな販路として、輸出の取組にも力を入れている。

令和5年の3市場の荒茶取扱量は 3,441tで、茶市場に出荷された荒茶の一次出荷先をみると、全生産量の 70%程度が県内の茶商に販売されている。県外への移出先では、移出量の約 40%が京都府を中心とする近畿地方へ、約 30%余りが愛知・岐阜県等東海地方へ、約 20%が静岡県等の関東地方へ移出されているものと推定される。

県内市場における取扱状況

(単位:t、%)

年次	JA全農みえ		水沢茶農業協同組合	亀山茶農業協同組合	計
	北勢茶センター	南勢茶センター			
S45	506	—	1,606	1,385	3,497
S50	806	606	1,239	1,600	4,251
S55	801	765	1,528	1,670	4,764
S60	941	983	1,885	1,355	5,164
H2	893	831	1,852	1,100	4,676
H7	1,004	745	1,970	1,100	4,819
H12	1,337	945	2,783	1,220	6,285
H17	1,263	1,024	1,945	1,232	5,464
H22	897	734	1,872	918	4,421
H27	966	717	以降、三重茶農業協同組合 2,572		4,255
R2	788	639	1,838		3,265
R3	996	582	1,980		3,558
R4	1,005	611	1,977		3,593
R5	902	529	2,010		3,441
前年比 %	89.8	86.6	101.7		95.8

(資料:茶市場調査)

(6) 茶産出額

令和3年の茶の産出額は、生葉は43億円、荒茶は5億円、生葉と荒茶の合計は48億円で、前年に比べ約14億円増加した。

三重県の農業産出額における茶の位置付けは、県全体の農業産出額1,067億円のうち4.5%を占め、米、鶏卵、肉用牛、豚、生乳に次いで第6位となっている。

本県品目別産出額の上位品目

令和2年				令和3年			
順位	品目	産出額 (億円)	構成比 (%)	順位	品目	産出額 (億円)	構成比 (%)
1	米	270	25.9	1	米	228	21.4
2	鶏卵	161	15.4	2	鶏卵	200	18.7
3	豚	86	8.2	3	肉用牛	88	8.2
4	肉用牛	79	7.6	4	豚	80	7.5
5	生乳	64	6.1	5	生乳	67	6.3
6	みかん	36	3.5	6	茶(生葉)	43	4.0
7	茶(生葉)	31	3.0	7	庭園樹 苗木	38	3.6
8	庭園樹 苗木	30	2.9	8	みかん	33	3.1
9	トマト	24	2.7	9	トマト	30	2.8
10	いちご	18	1.7	10	いちご	20	1.9
農業産出額計		1,043		農業産出額計		1,067	

(資料:農林水産省「生産農業所得統計」)